
地獄の三丁目と四丁目

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄の三丁目と四丁目

【Nコード】

N9577N

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

20枚完結予定。暗いのを書こうと思います。

アマ作家はきつい。バイトからくたくたになって部屋に帰り、小説を書く。サイトに載せる。しかし、印税や原稿料は出ない。寝る時間もほとんどない。バイトの報酬もわずかである。きつい。地獄である。

アマ作家になんかなるんじゃないかなあ。こんなきついとは思わなかった。プロ作家か社員になっておけばよかった。仕事はラクだし、報酬もいいので生活がラク。

しかし、自分で選んだのだから苦しみに耐えないといけない。誰に強制されたわけでもないのだ。今はみな低所得で苦しいので無料で小説を配信することに決めたのだ。後戻りはできない。

いわゆるボランティア精神である。

そういうのも世の中にあっている。金儲けだけがすべてではない。貧困に苦しむ人々に面白い小説を提供するのは大事だ。金持ちだけ面白さをゲットできるなんてそんな世の中はいやだ。

しかし、アマ作家は地獄である。そのことは避けようがない。バイトも地獄である。低価格でよいサービスを提供するシステムが完全に社会に定着してしまった。つまり、低賃金重労働から抜け出せない。蟻地獄である。

地獄の三丁目に住む。実にしんどいし苦痛だし憂鬱である。できれば通り魔をしたい。合法化されれば初日にする。

そんな中でもささやかな幸せがある。

と普通書く。

しかしオレは書かない。

なぜなら、ないからだ。ウソは書けない。

助けてくれ、と毎晩叫んでいる。なかなか抜け出せない蟻地獄。どこまで行っても闇。果てしなく続く闇。闇、そして闇。

何にもない。どこまで行っても、闇、闇、闇そして闇。

気が狂いそうである。

日本に原爆を二百発ほど落としたい。そんな気分である。オレが防衛省大臣なら即座に原爆を極秘開発し、二百発日本に落とす。

いや三百発ほど落とす。

テロリストを雇い、原子力発電所に自爆テロするというのも手かもしれない。

バイトは地獄である。

アマ作家は地獄である。

地獄の日々は長い。いつまで続くのか。それは神しからない。オレにはわからない。バカなので。

闇、闇、闇。崩壊した日本社会の哀れな実像である。虚像ではない。これは現実なのだ。

夢であってくれと毎日願う。しかし、現実なのだ。

本日、休日、勤務先の塾で講師会。そのあと、食事会。

講師会の意義は認める。やはり、授業だけではわからないことが多い。講師会で意見交換するのは大事だ。

しかし、非正規労働者は授業の時点ですでに疲弊している。講師会など出たくない。しかも休日て。

食事会。これも大事なものは認める。そして、食べるのが基本だから楽しいには違いない。

しかし、会費1500円で。

月収十万円でこれはきつい。

しかも割り勘だと、1200円。学生講師が1000円である。

大人である社会人講師が子どもにおこれという発想である。無論、社会保障のある社員ならその考えは妥当であろう。

しかし、非正規労働者にそれは酷だ。我々非正規講師は低所得すぎて結婚すらできない。その上、まだお金を奪うか。

本来、社会にお世話になつてる学生が、低賃金に耐え世話をしあけてる社会人を労うために1500円払うのが筋ではないか。いや、非正規社会人講師は会費をゼロ円にし、学生講師がすべて負担するのが筋ではないか。いわば我々、非正規社会人講師は自らの人生を犠牲にし、学生や老人などの生活をほぼ無料で支えているわけである。だから、学生講師が会費くらい非正規社会人講師の分も支払うのは当然の義務ではないか。

それが人間として当然のあり方だと思う。それなのに実際は逆のことをしている。

世の中の矛盾に頭を抱える。

ロリコンは病気である。それはロリコンのオレもよく知ってる。

十年以上前に好きだった子と別れたのがショックで、オレは一度もセックスをしていない。というよりその子とも別にセックスをしたわけではないので、34年間一度もセックスをしていない。んでいつの間にかロリコンになっている。

確かに、女子小学生とセックスしてる映像を売るのは違法であると思う。しかし、女子小学生とセックスしてるのを描いた漫画や小説を売るのはまったく合法であると思う。

確かに児童向けの漫画や小説ではいけないと思う。しかし、大人向けのはいいと思う。

というより、そういったロリコン漫画やロリコン小説を読むことによって、実際にロリコン犯罪をしなくなったら、これは社会的に有意義である。警察の仕事も減る。

ではなぜ取り締まるのか。

ロリコン漫画やロリコン小説を読みマネして実際にロリコン犯罪をしてしまうバカチンがいるためである。

であるので確かに危険な書物ではあるには違いない。しかし、抹殺していい書物でもない。

二律背反である。ロリコン漫画や小説がないとロリコン犯罪が減らない。

しかし、ロリコン漫画や小説の影響でロリコン犯罪に走るバカチンもいる。

これは永遠の葛藤といえよう。

ただオレの場合、低所得からロリコンに走ってる部分が多い。ロリコンを減らすもう一つの方法は労働者に適正報酬を支払うことである。

しかし、現在のところ、企業も政府も何もできない。

世間もそうである。労働者の所得上げるために、価格を高くする
と言え、世間はきつと反対するであらう。非正規労働者の最低限
の生活権より自分らの贅沢の方が大事なのである。

これではロリコンはいつまでたつてもなくならない。

国民の一人一人がロリコン犯罪に協力してるという意識をしつ
かり持って生きていかなばならない。時代はそこまで来ている。ロリ
コン犯罪はもはやロリコンだけの問題ではないのだ。世間もけしか
けるのだ。

違うという人は今すぐ、商品の価格を上げると言え。価格が上が
れば、非正規労働者の賃金上がり、精神を病む必要がなくなりロ
リコンでなくなる。結婚も夢ではなくなるだろう。

価格が上がるのはいやだ、ロリコンを殺せでは話にならない。

ロリコンが低賃金重労働に耐えてるから、国民が何とか生活でき
ていることを、国家がぎりぎり運営できてることを我々は忘れては
ならない。

オレもロリコンが地上からなくなことを望む。しかし、現在の
状況ではそれはほぼ不可能なのだ。時代はもうそんな状態じゃない。
正直、地獄である。

感じのいい場所を無理矢理ぶち壊して仲間はずれにされる夢を観た。

自己分析。

リアで、他人の言うことを聞きすぎて損してる印象がある。ただ人間関係のことを考え、そうせざるをえない面がある。

感じのいい場所とはきつと、なろうや職場や家や友達のことだろう。そしてオレの求めるフィールドはやはり書籍である。

そして実にその今いる場所では本気でオレがプロ作家になれると思ってる人は一人もない。そのイライラがまずある。

いや中には楽しみにしてるよと言ってくれる人もいるが、そう本気では言っていないように見える。これはあくまでオレの主観でその人に聞けば、そんなことはないと言えりるかもしれないが。

言動の節々からそう感じられる。

実にイライラする状況である。ほんまに通り魔しようかなと思う。このままでは押しつぶされてしまう。殺される。

目に見えない敵との戦いである。どこから襲ってくるかわからない。

おまけにやつらは、日本刀を持っていて、たちの悪いことにこれに実体はある。

オレは皮膚を斬りつけられ、胃を斬りつけられることもある。

日に日に心を身体を蝕んでいく。

この地獄から抜け出す方法はないものか。

戦慄の負のスパイラルである。

がんばればがんばるほど痛い目にあう。こんなバカな話があるか。普通一日13時間も働けば社会保障くらいする。オレが企業ならする。でもせん。

小説書くのもうしんどいな。疲れた。

果てしなく広がる闇。そして闇。

光が見えない。

どこへ向かっているのか。

どこから来たのか。

まわりが真っ暗なのでさっぱりわからない。
怖い。

地獄である。どこまで行っても地獄である。胃が痛い。ドリルでぐりぐりやられてる感じがだ。キリキリ痛む。

なぜオレはこんな地獄に来てしまったのか。そして地獄から抜け出せないのか。

助けてくれと叫んでも鬼に竹刀で叩かれるだけである。

頭がおかしくなって、うほうほゴリラダンスをやってしまう。
するとまた鬼に竹刀で叩かれる。やってられない。

正直、もう前に進めない。あまりに絶望を知りすぎた。進み勇気がわかない。

三十路・非正規・童貞。

これが現実である。

三十路・社員・妻子持ち。

これは夢である。

しかし、友達にとっては現実である。そして、友達にとってオレはファンタジーの世界のかわいそうな人に過ぎない。ほぼ架空の存在である。現実にいると認識していれば援助をするはずなのだ。

おつてもおらんでもいい、どうでもいい存在なのである。

死のうが殺されようが世間にとってはどうでもいい、虫ケラのような存在なのである。

企業でも文句を言わずに働いていれば、何も言われないが「時給を二千円にしてください。これじゃ結婚できません」と当たり前の人間としては本当に当たり前の権利を主張しただけで、いやがらせをされる。

こんなバカげたことが世の中にはあるのである。地獄そのものである。

ただこんな地獄にも救いはある。

と書きたい。でも書けない。ないからだ。

何の救いもない。それでも生きていかならない。正直、つらい。地獄である。

雨が一年間ずっと降ってる感じだ。実際にはそんなことはありえないが、心の世界ではそれはありうる。オレの心は年がら年中、雨が降っている。止まない日がない。しかし、心は病む。

ダジャレではない。本当なのだ。雨は止まないが、心は病むのである。不思議なことだ。

苦痛である。地獄である。もう生きてるのがいやになる。何の希望もない。

何もない。

生きてる意味すらわからない。
死んでも同然である。

はつきり言つて、地獄である。これ以上悪くなることはあつても、これ以上よくなることはない。地獄である。

オレ、童貞。34歳で童貞。

テレビで、できちゃった婚の話。板前と学生。19のとき、付き合い始めて、20のときに娘ができて、結婚。

この違いはいつたいどこから来るといつのか。いつたい何なんだ。

怒りもくそもない。何なんだ。

わけわからない。

山崎邦正でさえ結婚して子どもがいる。

なのに、オレは34歳、童貞。セックスすらしたことがない。地獄である。

抜け出せない地獄だ。

オレがセックスする日は来るのか。する前に死ぬんじゃないか。

不安だ。

怖い。

地獄である。地獄である。

いやだ。セックスもしてないのに死ぬわけにはいかない。しかし、絶望のあまり自殺してしまうかもしれない。

地獄である。

暗闇である。どこまでも続く果てしない童貞地獄。

恐ろしい。これは小説ではない。現実なのだ。もうどうしたらいいんだ。

どうしたらいいんだ。

わからない。わからない。

苦しい。痛い。キリキリ痛む。もうだめだ。もうだめだ。

鼻毛を抜いたら白髪だった。もうおしまいだ。

なんと飲み会、室長におごってもらった。予想外。

ただやはり講師会のハードルは高かった。いや、社員ならやって当たり前のことだが、非正規にはきつい。社会保障がないからだ。

いったいいつから日本はこうなってしまったのか。非正規が1800万人もいる。正直、異常事態である。

非正規は本当に地獄だ。北朝鮮の方がまだましだ。北朝鮮はひどいと言うのは社員だけだ。非正規にとって北朝鮮も日本も同じようなものだ。

いったい非正規が何したちゅうんだ。何か悪いことしたか？低賃金重労働に耐え懸命に働き、低価格でよいサービスを提供してる。かなり社会貢献してる。

それなのに何でこんな酷い目にあわないといけない。なぜ社員にだけ結婚権があり、非正規にはないんだ。社員も非正規もしんどさは同じである。社員がしんどくて非正規はラクという発想は幻だ。むしろ非正規は部下がいないので雑用をすべてこなさないとけない。命令だけしてふんぞり返ってる社員の何とラクなことよ。

それなのにこの所得格差。世の中狂ってる。異常社会だ。

この十年でだいぶ差が開いちまったな。社員にしか生存権がない。憲法なんてうそっぱちだなあ。

そりゃ自己責任もあるよ。ただそれって社員にも自己責任があるというレベルの話で、企業は十年も雇ってるならそれなりに社会保障をしないとイケない。数年で辞めるならともかくね、十年もやってる労働者に何も無いってやっぱ変。

そりゃ社員と同じだけの社会保障をせえとは言わない。社員と非正規労働者は仕事量は同じだが、仕事内容が違う。同じ社会保障は無理だ。

しかし、社員の社会保障の半分くらいはできるはずだし、するべ

きだ。

例えば、年金と健保の月額三万円を企業が出すとか。そんなし
ても別に嬉しくないけど、多少助かる。三万円を生活費に当てるこ
とができる。それくらい至急してほしい。

でもせん。なぜだ。三万円くらい出せよ。十年もやってんだから。
ガキじゃねえぞ。

企業の考えてることがだんだんわからなくなってきた。なぜこん
な酷いことばかりするんだろう。人間の心がないんだろう。悪魔そ
のものである。時給は2000円でいい。それ以上は要求せんが、
それ以下は認めない。認めたら死ぬしかない。

もう死のうかなあ。生きてても何もいいことがない。苦痛しかない。非正規労働は、ほんまにしんどくてしんどくてたまらない。社員ともなれば命令する相手がいるからスカッとするけど、オレは下端命令されてばかりでストレスが尋常じゃない。しかも、もう34歳。普通なら部下がいる。年下の社員にこき使われて、年下の学生バイトの尻拭いやらされて、パートのおばちゃんに命令される。うんざり。地獄である。

じゃあ給料がいいかといえば、週5で一日8時間働いても、たったの13万円。何もできない。

アパート代	50000円
市県民税	5000円
ガソリン代	5000円
ケータイ代	8000円
光熱費	10000円
健保年金	30000円

これだけで、108000円。何のために生きてるのかさっぱりわからない。

もう死にたい。生きていても何もいいことがない。

社員雇用もこの年齢（34歳）になると、ほぼ不可能。企業は、この歳になるまで非正規の経験がないと何か欠陥があるのではないかと思うだろうし、今は社員の解雇もある。できる人材を企業は求めている。一から教えようという感じではない。実際、フリーターがある店舗の店長に採用されたら、27時間勤務とかあまりに激務でうつ病にかかり入院した。

といっても、小説はさらに難しい。読者はよく知ってると思うが、オレの作品は新人賞のレベルに達していない。すぐに収入とかは無

理である。十年二十年かかる。そんだけかけても無理かもしれない。才能がない。

ビルから飛び降りようかどうか真剣に悩む日々である。

職場でギヤースカギヤースカ言われ重労働を強いられ、スズメの涙ほどのお金しかもらえない。

もう死にたい。生きていても苦しいだけ。

なぜ世間は適正報酬を労働者に支払おうとしない。当たり前のように低価格を謳歌すんな。いいかげんにしろ。

通り魔をしてないのが不思議である。いつまでこんな苦しい生活が続くのか。この世の地獄である。

もういやになっちまった。苦しい。本当に苦しい。ラクになりたい。死ねばラクになるだろうか。

ビルを見ると上って屋上から飛び降りたくなる。

電車の来る音がすると、踏切を飛び越したくなる。

華子、助けて！

華子とセックスしたい。華子といちゃいちゃしたい。華子の乳首なめたい。

でも、不可能である。どうにもならない。

人生、すべて絶望。闇の中に生きている。どこまでも闇。光が見えない。光はどこだ。はげ頭も太陽がないと光らない。光るはずがない。

はげ頭のアホ！死ね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9577n/>

地獄の三丁目と四丁目

2010年10月8日10時59分発行